

国際保護連合 (IUCN) に

“世界の侵略的外来種ワースト100” に選ばれた

ツヤハダゴマダラカミキリ

の生息が確認されました。

令和4年2月までに8県21市町から発見情報！！

(宮城県・福島県・茨城県・埼玉県・富山県・愛知県・兵庫県・山口県)

※本虫は海外において、幅広い樹種の樹木に甚大な被害を及ぼしています。

- 体長 雄成虫：20～29mm
雌成虫：22～35mm
- 体色 全体に光沢のある黒色で鞘翅に約20個の白色～黄斑がある
- 触角 12節で、3～12節には明瞭な白色の帯がある
雄は体長の2.5倍
雌は体長の1.3倍と長い
- 成虫は5月～10月に出現
- 1年に1世代で、卵・幼虫・蛹態で越冬

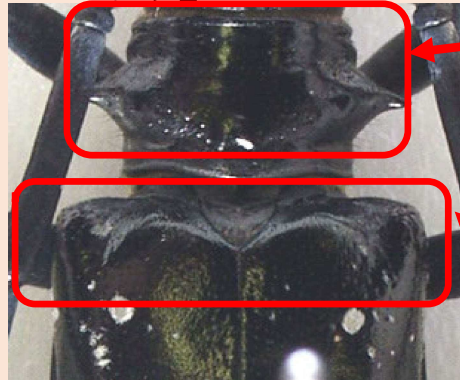
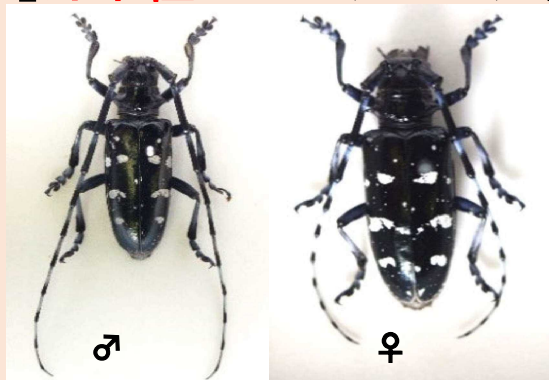


雄成虫

雌成虫

在来種のゴマダラカミキリとの見分け方

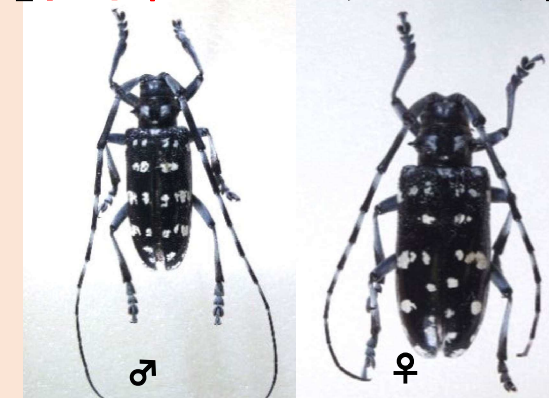
【外来種ツヤハダゴマダラカミキリ】



『前胸背』
・ 白紋を持たない

『上翅基部』
・ 顆粒状突起を持たない
・ 白紋を持たない
・ 小楯板は白色軟毛に覆われない

【在来種ゴマダラカミキリ】



『前胸背』
・ 中央に2つの白紋を持つ
(個体によって非常に薄い場合がある)

『上翅基部』
・ 顆粒状突起を持つ
・ 白紋を持つ
・ 小楯板は白色軟毛に覆われる



産卵痕

寄主植物にすり鉢状のかみ傷を付け、そのくぼみに1個ずつ産卵する。



フラス

幼虫は、白く粗い木屑状のフラスを排出する。ただし、ふ化直後は黒褐色の細かい糸クズ状の糞を産卵痕から排出する。

成虫の脱出孔

直径10~15mmのまん丸い孔を開け脱出する。



寄主植物

ニレ属(アキニレ、ハルニレ)、カツラ、トチノキ属、ヤナギ類(海外では、ポプラやカエデ類への被害が報告されています。)

防除方法及び留意点

伐倒駆除

☆被害木を伐採し、細かく破碎(チップ化)するか焼却処分する。
・伐採後も幼虫は樹木の中で生き続け、成虫となって脱出できるため、伐採した樹木は放置せず、速やかに破碎又は焼却する。

薬剤防除

☆成虫:成虫発生初期又は直前に樹幹散布する。
☆幼虫:食入孔にノズルを差し込み噴射する。
・樹木類・カミキリムシ類に登録のある農薬を使用する。
・農薬の使用に当たっては、必ず登録内容を確認する。

ツヤハダゴマダラカミキリを見つけたら

・土地や施設の管理者、自治体窓口までご連絡ください。
・発見日時、発見場所、発見時の状況をお知らせください。
・可能であれば、写真を撮影してください。
・成虫を捕まえた場合は、殺処分してください。